

## 小規模多機能型居宅介護 サービス評価 【事業所自己評価】

- ◆事業所自己評価  
事業所自己評価・ミーティング様式・・・・・・・・・・(事-①～⑨)

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4	8			12

前回の改善計画	新規利用者はケアマネ・担当職員を中心として、職員間で円滑に情報共有が図れるよう各自コミュニケーションを密にし、関係性の構築、課題抽出に努める。自宅での生活環境の把握は、ベッド回り・トイレ・浴室等図面に落とし込み共有する。
前回の改善計画に対する取組み結果	ケアマネ・担当職員を中心に関係性の構築や情報共有を図ったが、職員の理解度・発信力に差があり、十分な成果には至らなかった。 ご利用者の自宅での生活環境の把握については、生活空間を図面化することで理解しやすく共有できた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	7	4	1		12
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	4	6	2		12
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	5	7			12
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	3	8	1		12

できている点	積極的にコミュニケーションをとり関係性構築に努めたことで、新たなニーズを把握できた。情報はケアプラン、申し送りファイル、ミーティング、ケア記録等で共有。本人に合わせた関わり方や、本人の自律に繋がるような支援に繋げる事ができた。家屋内の間取り・駐車場所など図面で確認出来るようにして共有した。ご利用者やご家族のサービス利用前の不安やニーズを職員間でしっかり共有し、安心して心地よく過ごしていただけるように常に意識して支援した。
--------	--

できていない点	会話力や意識の不足により、ご利用者の想いや希望を十分に聴きとれていないと感じる。職員によっては情報発信に差があり、共有が不十分。担当職員が決まっても、職員によって担当である意識がない事で担当職員からの情報がない。ご家族様との関係づくり、信頼関係の構築が不十分と感じる。各職員で理解力や決められたことが実施できていない等、個人差がある。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	初期支援において、全職員で情報収集・共有を強化し新規利用者への対応に差が出ないように努める。自宅での生活環境の把握については、引き続き生活空間を図面化して共有する。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	6	5		12

前回の改善計画
本人の「～したい」気持ちを引き出す働きかけや声のかけ方を工夫する。特に意欲低下や傾眠傾向のある利用者が発する言葉や行動などをケア記録に残して具体的な支援に繋げていく。 一人ひとりの「楽しみ」を把握・情報共有し、「本人の目標 (ゴール)」を理解する。
前回の改善計画に対する取組み結果
意欲低下や傾眠傾向のある方への声かけを工夫し、ケア記録で共有することで具体的な支援に繋げることができた。 興味や意欲を引き出せるような個別ケアの提供、「本人の目標 (ゴール)」の理解が不十分だった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	2	3	7		12
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	2	6	4		12
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	6	5		12
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	8	3		12

できている点
認知症実践者研修の自施設実習支援計画を全職員にて取り組み、想いを引き出すことができた。 特に意欲低下や傾眠傾向のあるご利用者が発する言葉や行動などを、ケア記録に残し支援に取り組んだ。 季節の行事、一人ひとりの誕生日会、様々な催しを企画し事業所に通うことが楽しみになる工夫をした。 傾眠傾向のあるご利用者にはこまめに声かけを行い、様子や行動を記録し次の支援に繋げた。 ご利用者の意欲に繋がる役割を職員間で共有し、ご利用者が行いたいことを理解して実行できた。

できていない点
興味、意欲を引き出せるような個別ケアの提供が不十分。 「～したい」という思いを継続的な支援や役割に繋がられず、本人の目標やゴールを十分に理解できていない。 自分自身 (職員) が十分に理解する事に時間がかかり、ご利用者の「やりたいこと」を把握するのが遅かった

次回までの具体的な改善計画
ご利用者の自己実現に繋がるよう、一人ひとりの「楽しみ」を把握・情報共有し支援を行う。興味や意欲を引き出せるようアプローチを試み「本人の目標 (ゴール)」の理解に努め、個別ケアに反映する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

3. 日常生活の支援

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組めましたか？		8	3	1	12

前回の改善計画
本人との関りはもちろんのこと、家族と関わりを深めて施設外での生活習慣の把握に努め、ケアプランへの反映やケアの見直しへ繋げる。発信力の弱い若手職員には中堅以上の職員と一緒に課題解決に向けて考える機会をつくる。LIFE（科学的介護情報システム）における現状評価を継続して本人の状況を把握する。
前回の改善計画に対する取組み結果
本人との関りで施設内での生活環境の把握はできたが、施設外での把握は独居の方やご家族が遠方にいらっしゃる方は把握が難しい部分もあった。若手職員に対しては共に考え解決に向けて取り組めた。LIFEにて担当職員が本人のADL等現状評価を行ったが、職員間の共有が不十分だった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか？		4	7	1	12
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか？	3	8	1		12
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか？		7	5		12
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか？	2	9	1		12
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか？		10	2		12

できている点
積極的に自分からコミュニケーションをとり、知り得た心情や体調の変化は記録等で都度発信した。自立支援を念頭に過剰支援は行わず、また、必要な配慮を行うなど適したケアの実践。本人の声にならない声をチームで言語化できている。気持ちや体調の変化を常に共有できている。ショートステイ利用者に対して、自宅と同じように過ごしていただくよう就寝時間等を伺い、生活環境（環境整備）の提供。

できていない点
本人の性格に加え、認知機能や理解力低下により把握が困難。「以前の暮らし」について10個以上把握できていない。ご家族とも話をする機会が少なく本人についての理解が不十分。LIFEを活用したご利用者の状況の把握。職員間の温度差、違う捉え方をしていることがある。

次回までの具体的な改善計画
自宅（施設外）での生活環境の把握のため、担当職員がご本人への聴き取りはもちろんのこと、積極的にご家族へアプローチをして情報収集に努め、ご利用者の「以前の暮らし」を理解して支援に繋げる。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	4	7		12

前回の改善計画  
センターシートの活用、見直し、理解を深め、現在の状態、生活環境や人間関係を把握し、当人の声も踏まえて必要な支援を改めて考える。地域生活支援の勉強会を開き、利用者・家族・地域資源と施設がどのように関わって安心した生活が継続できるのかを考え支援に繋げる。

前回の改善計画に対する取組み結果  
センターシートの活用で本人理解と支援に繋がったが、センターシートの活用が特定利用者のみだった。また、センターシート・地域生活支援への理解に対して職員間で差があり、十分に活かしきれていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	7	4		12
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	2	5	4	1	12
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	6	4	1	12
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	3	6	2	12

できている点  
ご家族や介護者から話を伺い、ご利用者との会話から自宅での過ごし方やご家族との関係性についての情報収集。本人の現状、生活環境の理解。  
センターシートの必要性の高い利用者に活用。  
徘徊の可能性が高い利用者には民生委員とサービスの内容を共有。  
過去の生活歴の把握、現在の状況の情報収集。地域交流。

できていない点  
ご家族が一緒(同居)でない方は事業所が直接関わっていない時間の過ごし方は把握できていないところがある。  
センターシートの活用が不十分で生活歴や地域との関係性を十分に把握できず、支援に繋がられていないと感じる。  
ご利用者の施設での様子をご家族へ伝えての情報共有。本人の地域生活の理解。  
民生委員や地域資源等の把握。

次回までの具体的な改善計画  
センターシートの活用・見直しで、本人への理解を深め、生活状況や要望を把握して必要な支援を検討する。  
地域生活支援の勉強会も継続して理解を深める。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	5	5	1	12

前回の改善計画
地域資源の把握が十分でなく活用できていないこともあり、今一度地域資源（フォーマル、インフォーマル）について理解を深める。活用法も含め、勉強会を開催する。
前回の改善計画に対する取組み結果
地域資源を活用した支援を行ったが、「買い物支援」「散髪支援」といった限定的な内容だった。ご利用者のニーズには応えることができたと考えるが、他のフォーマル、インフォーマルの地域資源についての活用は不十分だった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	4	4	3	12
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	3	7	2		12
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	2	9	1		12
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	8	1		12

できている点
本人のニーズ、ご利用者の状況、ご家族の事情で急な時でも「通い」「訪問」「宿泊」サービスを柔軟に提供している。 本人の「今まで」「これから」を理解するよう「地域生活支援」の勉強会を行って、事業所だけで抱え込まないよう支援に取り組んだ。 送迎時、馴染みの店での買い物支援や、事業所の車椅子を貸し出すのではなく社協の車椅子貸与を利用していただいた。（地域資源の利用）

できていない点
各利用者の現状を鑑みて支援はしているが、地域の資源を活用した支援は不十分。 自分から変化に気づくことがまだ少ない。柔軟な支援が出来ていない時がある。 地域の資源について、具体的にどのようなものがあるのかを十分理解できていない。

次回までの具体的な改善計画
より一層ご利用者のニーズに応えられるように、地域資源の活用について理解を深め、支援やサービスの提供に活かす。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

6. 連携・協働

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	前回の課題について取り組めましたか？		8	3	1	12

前回の改善計画	引き続き『小規模多機能型居宅介護施設について』勉強会を行い、地域との関り、事業所の在り方について考える。また、地域イベント等を通じて個々が積極的に関わる機会をつくる。
前回の改善計画に対する取組み結果	「地域生活支援」の勉強会を開催し、地域との関りや事業所の在り方について考え、再認識できた。地域や外部ボランティアとの関りは限定的なものとなった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計（総人数）
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？		4	5	3	12
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？		4	4	4	12
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？		4	6	2	12
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？		2	4	6	12

できている点	事業所へ地域の人が訪れ、施設駐車場で案山子作りを一緒に行うことが出来た。また生き物調べや用水路探検もあり、子どもの参加があり交流を持てた。 駅伝など地域で行われるイベントに参加。 ボランティア団体を招き、同希望施設との交流目的で合同オカリナ演奏会を提案し実施した。 地域との関り、事業所の在り方について考えるため「地域生活支援」の勉強会を行った。
--------	--

できていない点	外部機関との関わりについては理解しているが、会議に参加していないため、実際の話し合いの内容を把握しきれていない。（議事録確認のみ） 積極的な地域活動への参加、地域との関わり。行事等での外部ボランティアの方との交流。 登録者以外の高齢者や子供は訪れることはほとんどない。 地域活動を知ることができても、自身として情報収集する手段がなく動いていない。 参加はしているが、自分から意見を言えない。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	地域や外部ボランティアとの関りを拡大し、事業所との連携・協働に努める。『小規模多機能型居宅介護施設について』勉強会も継続し、地域との関り・事業所の在り方への理解を深める。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

7. 運営

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	1	8	2	1	12

前回の改善計画	管理者・ケアマネの他、介護職員に運営推進会議への参加を促し意見や感想を残す。運営推進会議の意義、知識と理解を深め、円滑な施設運営に繋げる。
前回の改善計画に対する取組み結果	運営推進会議への参加は管理者・ケアマネの外に介護職員が出席し発言や意見を伺うことができ、円滑な施設運営に繋げることができた。一方で勤務体制などから、全職員が出席することができなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているですか?	2	7	3		12
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	6	2		12
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	7	2	1	12
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	1	6	3	2	12

できている点	ご利用者・ご家族介護者からの意見や苦情は速やかに上長・ケアマネへ報告後職員間共有し、早い段階で運営に反映・改善するよう努めている。意見を十分理解し反映して、今後の対応に活かしている。運営推進会議に区長、3地区の民生委員、家族代表が参加し意見を運営に反映している。また、管理者・ケアマネの他に介護職員も参加。会議を家族会と同日に設けて実施した。運営推進会議に参加する事で事業所の在り方、皆さまからの意見を直接聞くことができ良かった。運営推進会議には直接参加していないが、議事録を確認し家族介護者からの言葉を受け止め、業務推進に活かしている。
--------	---

できていない点	地域活動への参加・行事等協働した取り組み。地域の方との接点が少なく、意見交換できていない。また交流する機会を持っていない。事業所の在り方について職員として意見があっても、意見が言えていない。運営推進会議の全職員参加。地域交流のアイデア等あっても反映できなかった。
---------	---

次回までの具体的な改善計画	介護職員以外も運営推進会議に参加して外部からの意見を伺い、運営推進会議への理解と円滑な施設運営に繋げる。
---------------	--

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

8. 質を向上するための取組み

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	3	7	2		12

前回の改善計画	R7 年度も毎月の部署会議にて勉強会を実施しスキルアップに努める。役職者だけの主導ではなく、他職員も登壇者となり、全体のスキルを磨き向上させる。
前回の改善計画に対する取組み結果	毎月の部署会議で勉強会を開催して認知症事例検討や感染症対応等、職員のスキルアップに努めた。一方でケアマネジャーが登壇者となる場合が多く、他職員が登壇者となる機会が少なかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	3	7	2		12
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2	6	3	1	12
③	地域連絡会に参加していますか	1	2	4	5	12
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	3	8	1		12

できている点	自分のいない時に起こった事故等も事故報告書に目を通して共有し事故防止に努めている。 法人のサービス向上研修会や市主催の認知症研修など、意識して研修に参加している。 部署会議で認知症事例検討を勉強会に組み入れ、日常的な出来事を具体的な対応を考える機会を設けた。 主にケアマネからの勉強会だったが、自分の考える答えよりもその先の考えや答えを教えてもらい、とても勉強になった。 リスクマネジメント、コミュニケーション技法等、継続的な学習を行うことで全体のスキルアップに努めている。
--------	---

できていない点	「他職員も登壇者となり」の勉強会を主導することを考えていたが、今年度は自発的に行えなかった。 地域連絡会への参加。 リスクマネジメント強化に取り組んでいたが、結果として事故を起こしてしまった。 自身のスキルアップ。
---------	--

次回までの具体的な改善計画	引き続き、R8 年度も毎月の部署会議にて勉強会を実施しスキルアップに努める。 役職者だけの主導ではなく、他職員も登壇者となり全体のスキルアップを目指す。
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 8年 1月 30日

9. 人権・プライバシー

メンバー 才本・福木・青木・上田・大江・奥田・形山  
柳川・松本・木村・橋・伊藤

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	3	7	2		12

前回の改善計画

※R6年度と同様の改善計画とする。

虐待防止・身体拘束適正化委員会を中心に一年間継続した取組みを実施する。毎月の部署会議で、取組み状況を確認し、課題を検討し、次月の取組みに繋げる。

前回の改善計画に対する取組み結果

日頃から、虐待防止・身体拘束適正化への取組みは職員間で常に意識して支援を行っている。委員会からの研修課題にも取組み、施設内にて虐待や身体拘束については行われていない。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	5	7			12
②	虐待は行われていない	6	5	1		12
③	プライバシーが守られている	2	10			12
④	必要な方に成年後見制度を活用している	4	7	1		12
⑤	適正な個人情報の管理ができています	3	8	1		12

できている点

ご利用者の安心・安全を心がけプライバシーには十分に気を付けた上で対応している  
事業所として倫理観を重視されており、自身も人権や尊厳の配慮はできている。  
身体拘束・虐待は行われていない。  
研修などで得た知識・情報などからスピーチロック・フィジカルロックなどしないよう努めている。  
グレーゾーンと思われる対応については他の職員に尋ねて共有し、対応している。  
部署会議で身体拘束適正化委員会からの課題に対し、取組み内容について意見等をあげている。

できていない点

スピーチロックに関する言葉づかいや説明が不十分な場面がある。また、プライバシー（個人情報・排泄報告等）に配慮すべき報告時にご利用者が近くにいるという意識が欠けていた。  
業務を効率よくするために、早く終わらせようと雑な対応をすることがある。

次回までの具体的な改善計画

※R7年度と同様の改善計画とする。

虐待防止・身体拘束適正化委員会を中心に一年間継続した取組みを実施する。毎月の部署会議で取組み状況を確認・課題を検討して次月の取組みに繋げる。